

令和5年度 事業報告

川崎市麻生区社会福祉協議会

(社会福祉法人川崎市社会福祉協議会麻生区支部)

目 次

	頁
重点事業	1
1 麻生区社会福祉協議会運営事業	2
2 調査・研究事業	2
3 研修事業	3
4 企画・広報事業	3
5 地域福祉活動事業	4
6 団体等助成事業	5
7 委員会活動事業	5
8 共同募金事業	6
9 福祉パル管理運営事業	7
10 生活福祉資金貸付事業	7
11 ボランティア活動振興事業	8
12 麻生区あんしんセンター事業	11
13 老人いこいの家運営等事業	12
14 災害活動関連事業	13
15 団体事務	14
16 その他	14

川崎市麻生区社会福祉協議会 令和5年度 事業報告

◆重点事業◆

1 効果的な広報・啓発事業の展開

広報紙の配布については、タウンニュース紙の一面掲載や区内新聞折り込みの活用、また公式LINEアカウントの活用等、広報方法の工夫により区民への福祉情報の発信に努めました。

また、麻生区役所との共催事業として「第34回あさお福祉まつり」を実施しました。今年度はコロナ禍での規模の縮小や参加形態の制約が解消され、支え合いの地域づくりである「地域包括ケアシステム」構築の推進に向け、麻生区の地域福祉活動を多くの区民に周知し、福祉や社協への理解を広めました。

2 地区社会福祉協議会を中心とする住民主体の小地域福祉活動への支援

地区社協の自主的・主体的な活動と運営の充実・発展のため、地区社協や関係機関等との協働事業を支援しました。コロナ禍で休止を余儀なくされていた配食等の小地域福祉活動の再開に向け、食事づくりのボランティア講座の実施など、活動の実情に寄り添った相談対応を行いました。

事業委員会では、子育て支援委員会による子育てグループ等交流会の開催等、学習や情報提供の機会づくりに努めました。

3 ボランティア活動振興センター事業（福祉教育を含む）の充実強化

区内のボランティア活動や当事者活動と連携し、誰もが気軽にボランティア活動に参加できる機会づくりの支援に努めました。コロナ禍により休止していた「ボランティア相談コーナー」を12月に再開し、ボランティアコーディネイト委員による相談活動を実施しました。さらに、区内福祉施設のボランティア受入の再開を受け、ボランティアの受入方法や関わり方などの必要な知識を、事例などを通じて具体的に学べる「ボランティア受入担当者交流会」を開催しました。

福祉教育推進では、当事者団体やボランティアグループに協力いただき、講師派遣や体験の受入れ調整等、学校の福祉教育を支援しました。

4 財源確保の取り組みと区社協運営のあり方についての検討

賛助会費は麻生区内の小地域福祉活動を支える貴重な資金であることから、町内会・自治会のご理解のもと、強化月間の2月から募集を開始するとともに、各町会・自治会の事情に合わせて募集していただくなど柔軟に実施しました。今後も区社協事業を継続するために、賛助会員や寄付募集などの財源確保策とその合理的・効果的な活用方法について、次年度も引き続き各取り組みにおいて検討を進めてまいります。

事業報告の内容

麻生区社会福祉協議会 事業費【73,460千円】

【サービス区分事業活動支出 68,141千円】

【共同募金配分金 5,319千円】

1 麻生区社会福祉協議会運営事業

(1) 常任委員会、正副会長会議、運営協議会（会員意見交換会）の開催

ア 常任委員会の開催 5回

(5月23日、6月1日、8月28日、10月26日、2月14日)

イ 正副会長会議の開催 3回

(5月18日、8月2日、2月6日)

ウ 運営協議会（会員意見交換会）の開催

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催を中止（書面報告）

(2) 賛助会員募集

2月を賛助会員募集の強化期間とし、町会・自治会等の協力を得て、区社協・地区社協の趣旨や活動に賛同し、支援をしていただける賛助会員の増強に努めました。

賛助会費は、1口1,000円を基本とし、協力をいただきました。

令和5年度募集	賛助会員数	金額
実績合計	2,593名	5,534,500円
麻生東地区	1,636名	2,508,700円
柿生地区	957名	3,025,800円

(3) 寄託金

令和5年度一般寄附 1,960,663円（寄託品で決算上金銭換算したものを除く）

(4) 寄託品

令和5年度寄託品 29,184円相当

(5) 各事業の効果的な連携（総合相談支援）

ボランティア相談、日常生活自立支援事業や生活福祉資金貸付事業等の相談の他、福祉にかかわる様々な相談等、支援を必要とする方への総合的な相談支援を区社協の各部署や行政、相談機関と協力連携して対応しました。

総合相談（ふくし相談） 相談件数 464件

2 調査・研究事業

(1) 第4期麻生区地域福祉活動計画の推進

コロナ禍の社会情勢により対応や工夫を適宜行い、地域福祉活動の担い手不足に関する養成

講座や防災に関する基本的理解、地域のつながりの強化等を中心に「第4期麻生区地域福祉活動計画」を推進しました。

(2) 第6期川崎市地域福祉活動計画の策定（市区社協一体策定）

令和2年4月、市社協と7つの区社協が法人合併したことから、市区社協が理念や目標を一つに「川崎市社会福祉協議会 第6期地域福祉活動計画」を策定しました。市社協に設置された推進委員会で策定し、各区社協の重点的な取組みについては、区社協常任委員会にて協議・検討しました。

3 研修事業

(1) 区社協常任委員研修の開催

今年度は研修のあり方を見直し、社会福祉協議会を取り巻く環境の変化を踏まえた組織づくりや事業企画について考え、実践することを目的とする「区社協会員研修」を次年度より開催していくことといたしました。

(2) 区社協職員研修の実施

各職員の職制や担当業務に応じた市社協職員研修や外部研修等に参加しました。

4 企画・広報事業

(1) 第34回あさお福祉まつり事業

区内の福祉活動に関わるボランティア・当事者・施設・団体の活動を広く区民に周知し、区民の福祉への理解と関心を高めることを目的に、第34回あさお福祉まつりを麻生区との共催事業として開催しました。

昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、飲食の販売はせずに規模を縮小しましたが、今年度より飲食の販売を再開しました。

地域の「協働」と「参画」を基本とし、第34回あさお福祉まつり実行委員会を組織し、実行委員会と参加団体が主体となる運営を目指して、事前準備から当日の運営までを具体的に役割分担し実施しました。

参加団体数：63団体（前年度 54団体）

来場者数：約5,500人（前年度 約4,000人）

(2) 広報啓発委員会の開催

ア 広報啓発委員会 3回（6月16日、10月13日、1月23日）

イ 広報紙「ほほえみ」の発行

年間3回の発行を再開し、81号は業者委託による区内ポスティング、82号はタウンニュースの紙面に掲載、83号は新聞各社の新聞折り込み配布にて発行しました。

ウ ホームページの管理運営

区社協ホームページにより、区民に向けて、福祉団体のボランティア募集情報、地域の福祉情報、社会福祉協議会の事業などについて、随時発信しました。

エ 「親子福祉探検隊」について

今年度は、事業名称と内容の見直しについて検討しました。令和6年度より「親子・青少年講演会」として実施することにいたしました。

オ こどもへの福祉啓発について

引き続き、福祉教育の際にこども新聞を教材として用いて、福祉啓発を行いました。

カ 「福祉啓発映画会」について

効果的な開催方法について検討しました。

キ 麻生区社会福祉協議会紹介パネルの作成

麻生区社会福祉協議会についての紹介パネルを作成し、あさお福祉まつり、麻生区総合防災訓練にて展示し広報を行いました。

ク 公式キャラクターを通じた展開について

区社協広報紙やホームページ、各種事業開催時にキューちゃんを掲載しPRしました。福祉まつりでは「キューちゃんぬりえコンテスト」を実施（ほほえみ第83号参照）し、合計291作品の応募がありました。また、キューちゃんグッズを福祉まつり内で行われたシールラリーの景品にし、区社協紹介パネルにも掲載しました。

(3) 地域のイベントへの参加協力

ア あさお区民まつり 10月8日

5 地域福祉活動事業

(1) 小地域福祉活動の推進

小地域福祉活動の推進は、活動の主たる担い手である麻生東地区社協、柿生地区社協の運営を支援し、地区社協による主体的な活動が促進されるように働きかけを行いました。

(2) 関係団体・機関等との連携、各会議等に参加

区役所、福祉施設、地域包括支援センター及び教育機関等が主催する各委員会、会議に参加しました。

(3) 車椅子・福祉用具の貸出事業の実施

ア 車椅子の貸出（件数） 364件

イ 福祉器具の貸出（件数） 386件

(4) 移送サービス事業の実施

区内在住で、車椅子利用や歩行困難などにより移動が困難な方に対して、外出の機会や社会参加を支援するため、福祉車両「キューちゃん号」による移送サービス事業を実施しました。

本事業は川崎市社会福祉協議会麻生区支部として道路運送法による福祉有償運送登録のうえ実施しています。

ア 賛助会員数 7名

イ 運転ボランティア登録数 9名

ウ 利用件数 72件

エ 運営委員会の開催

オ 運転ボランティア定例会の開催

6 団体等助成事業

(1) 地域福祉活動への助成

麻生東地区社協 1,841,090円

柿生地区社協 2,383,060円

(2) ボランティアグループ等活動助成事業

地域のボランティアグループや当事者団体の自主的な活動を支援するため、その活動に対して必要経費の一部として助成金を交付しました。

27団体（計796,000円）

(3) 高齢者ふれあい活動支援事業への助成 10団体（1,213,929円）

(4) 社会を明るくする運動への助成 50,000円

(5) ボランティア・当事者連絡会への助成 190,000円

(6) 麻生区交通安全対策協議会への助成 30,000円

7 委員会活動事業

(1) 在宅福祉サービス事業

「みんなでささえあう、暮らしやすいまちづくり」の実現に向け、地域包括ケアシステムの

構築を見据えて、地域が抱える生活課題に対して、地域住民が自ら取り組んでいけるよう、地域のつながりを深め、お互いに顔の見える関係を築き、ささえあい、助け合うことができる地域力の向上を目指して事業を実施しました。

- ア 在宅福祉サービス委員会の開催4回（6月15日、9月13日、12月15日、3月13日）
- イ “つながり” を作って心豊かに生きる講演会（10月27日 対面方式で開催）
- ウ 委員会研修 1回（1月10日）
- エ 「ヤングケアラーとは」懇談会（令和6年2月29日）

（2）広報啓発事業（再掲）

区民へ地域福祉の広報啓発を図り、福祉活動への積極的な参加を呼びかけました。

（3）子育て支援事業

子育てにおける悩みや課題に対し、アドバイスを行う講座や講演会を開催するとともに、地域における子育て中の親・子を支援する体制づくりなどについて、子育て支援委員会で協議・検討を行いました。

- ア 子育て支援委員会の開催
4回（6月7日、9月11日、11月30日、2月8日）
- イ 「ペアレントトレーニング」参加者交流会
1回（7月3日）
- ウ 子育て関連グループ交流会の開催
1回（10月23日）
- エ 「ペアレントトレーニング『見直してみよう～うちの子って…～』」
4回（11月17日、12月15日、1月19日、2月9日）
- オ 子育て支援講演会の開催
1回（2月6日）
- カ あさお子育てフェスタへの参加（パネル展示）
1回（9月16日）

8 共同募金事業

（1）神奈川県共同募金会川崎市麻生区支会の実施する共同募金運動への協力

（2）共同募金の配分金事業の実施

ア 年末たすけあい配分事業

年末たすけあい運動により寄せられた募金の配分について、区社協に配分委員会を設置して、支援を必要とする高齢者世帯及び障害者世帯を対象に、申請に基づいて見舞金を配布しました。

配分世帯 391世帯 配分実績額 1,955,000円

イ あさおおもちゃとしょかん運営事業

障害を持つ子も、持たない子も、おもちゃを通じてともに遊び、豊かに育つことを目的に運営を行いました。

開館回数 44回

利用者数 493人

運営ボランティア数 延べ317人

次のウ〜コは、財源の一部について共同募金配分金を受けて行いました。

ウ ボランティア・当事者連絡会への支援（活動育成費の交付）（再掲）

エ 助成事業（再掲）

小地域福祉活動の担い手である地区社協に対し、育成交付金として交付し、継続的な支援を行いました。（共同募金配分金から、麻生東地区社協へ 260,000円、柿生地区社協へ440,000円）

オ 区社協運営事業（再掲）

カ 在宅福祉サービス事業（再掲）

キ ボランティア活動振興事業（再掲）

ク 広報啓発事業（再掲）

ケ 子育て支援事業（再掲）

コ 移送サービス事業（再掲）

9 福祉パル管理運営事業

川崎市から受託した活動拠点「福祉パルあさお」の管理運営を行いました。

今年度については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、コロナ禍における川崎市行政運営方針に基づいて開館しました。

(1) 研修室、フリースペースの貸出

ア 大研修室利用状況 519件（7,453人） ※前年度 503件（6,450人）

イ 小研修室利用状況 248件（1,436人） ※前年度 243件（1,308人）

ウ フリースペース利用状況 481件（2,070人） ※前年度 456件（1,754人）

(2) フリースペースのパネル展示・掲示スペース貸出（件数）

60件（5団体）

10 生活福祉資金貸付事業

低所得世帯、障害者世帯、高齢者世帯で経済的問題を抱える世帯に対し、各種資金の申込みを受付けるとともに、借受世帯への償還などにかかわる相談支援を行いました。

(1) 相談件数 1, 442件

(2) 新規相談件数 150件

(3) 貸付申請件数 18件

(4) 事務管理終了

償還完了	教育【5】 緊急小口【3】 福祉資金【3】 要保護不動産担保【1】	12件
移管	総合【2】 教育【4】	6件

(5) 貸付調査委員会の実施

1回（7月7日）

1.1 ボランティア活動振興事業

区民の福祉についての高揚と区内ボランティア活動の効果的な振興を図ることを目的とし、各種事業を実施しました。

(1) ボランティア活動振興センター運営委員会の開催

4回（7月27日、10月19日、12月18日、2月21日）

(2) 学生のための夏休み福祉・ボランティア体験学習「チャレボラ2023」

（市社協・各区社協等との共催事業）

①高齢者施設でボランティア！音楽を通じて高齢者と交流しよう！

8月10日、11日

②かぎ針でお花を作ろう！～目の不自由な方のお話と制作～

8月3日、4日

③「にんちしょう」ってなあに?!～記憶のツボゲームで学ぼう!～

7月28日

④「認知症」について当事者から学ぼう!

7月29日

⑤保育園でボランティアをしよう!

8月8日

⑥作業所でハーブティー（レモングラス）を収穫しよう!

7月26日

(3) ボランティア講座の開催

「食でつながる！ボランティア講座」

2回（3月6日、13日）

(4) ボランティア専門講座（田園調布学園大学主催）への協力

田園調布学園大学が開催するボランティア専門講座の広報について協力しました。

(5) ボランティアイベントの企画・実施

11月12日に行われた「あさお福祉まつり」において、相談窓口担当者ブースに参画し、来場者からの相談を受けるとともに、各機関との連携を深めました。

(6) 災害ボランティアについての取り組みの推進

① 麻生区災害ボランティアに関する連携会議の開催

今年度については、「川崎市内郵便局長防災研修」に参加し、区ごとのグループディスカッションにて、各機関（麻生区内郵便局、麻生区役所危機管理担当、麻生区社協）の72時間以内の初動対応について共有し、さらに連携の在り方について協議しました。

1回（2月5日）

② 麻生区総合防災訓練への参加

災害ボランティアセンターに関するパネルの展示やチラシの配布をし、区民の方に向けて普及啓発を行いました。

1回（12月2日）

(7) ボランティアコーディネート委員会の開催

ボランティアコーディネート体制の充実のため、ボランティア活動振興センター運営委員会の中に、「ボランティアコーディネート委員会」を設置し委員会を開催しました。

8回（6月6日、7月4日、9月5日、10月3日、11月7日、12月5日、2月6日、3月5日）

(8) ボランティア受入担当者交流会の開催

ボランティアを受け入れる福祉施設の担当者に向けて、ボランティアの受入方法や関わり方などのボランティアコーディネートを上に必要な知識を、事例などを通じて具体的に学べる機会とすることを目的に開催しました。

1回（3月12日）

(9) ボランティア相談事業（来所・電話・相談コーナーを含む）

令和5年度 ボランティアの依頼状況・調整状況

- ① ボランティア依頼（ボランティアしてほしい） 28件
- ② ボランティア活動希望（ボランティアしたい） 48件

（10）ボランティア相談コーナーの開設、再開に向けた検討

昨年度まで新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止としていましたが、令和5年12月より再開しました。

4回（毎月第3火曜日）

（11）ボランティア受入状況などの現状把握するための取組

ボランティア受入担当者交流会の参加申込書にアンケートを作り、ボランティアの受入状況などの現状を把握する取組を行いました。

（12）広報紙「ぼらぼら」・情報紙「ぼらぼら広場」の発行

ア 広報紙「ぼらぼら」の発行

広報紙ほほえみの紙面を活用して発行しました。

2回（7月、2月）

イ 情報紙「ぼらぼら広場」の発行

昨年度まで隔月発行を中止としておりましたが、令和5年5月発行分より隔月で発行しました。

6回（5月、7月、9月、11月、1月、3月）

（13）福祉教育推進委員会の開催

2回（6月22日、3月18日）

（14）福祉学習申込みに関する相談・紹介・調整

①申込件数 31件（延べ件数）

内訳：小学校 26件

一般 5件

本申込を通じて話を聞いた方・体験した方 2,815人（延べ人数）

②内 容 障害当事者等の講演・講習、車いす体験、高齢者疑似体験、アイマスク体験、講師派遣及び体験受入団体の調整、物品貸出 等

ア 小学校・中学校・高校の先生との福祉教育についての懇談会

1回（8月24日）

イ 福祉教育推進委員会委員研修

1回（3月18日）

ウ 福祉教育に関わる広報啓発

広報啓発委員会と連携し、福祉教育の際にこども新聞を教材として用いて、福祉啓発を行いました。

(15) 相談窓口設置機関（麻生市民館・やまゆり・社協）の連携強化

平成28年度に麻生区役所（麻生市民館）、NPO法人あさお市民活動サポートセンター（やまゆり）と麻生区社会福祉協議会が協力して、区内で活動している市民活動団体の情報を一元化し立ち上げた麻生区市民活動団体検索サイトの広報、周知に協力しました。

また、相談窓口・検索サイト担当者会議に参加し、令和5年度の取り組みについて協議しました。

3回（6月13日、7月11日、10月4日）

12 麻生区あんしんセンター事業

麻生区内に在住する判断能力が不十分な認知症高齢者や知的障害者、精神障害者等の権利擁護を目的として、日常生活自立支援事業の実施及び成年後見制度の利用に向けた相談・支援を行いました。

(1) 日常生活自立支援事業の実施

日常生活自立支援事業においては、福祉サービス利用援助・日常的金銭管理サービス及び書類等預かりサービスを実施しました。福祉サービスの利用料の支払い、生活費の出金など金銭の出し入れの手続き、公共料金や医療費等の支払い手続きを行いました。

- ・日常生活自立支援事業にかかわる相談

相談件数 894件（初回相談50件、継続相談844件）

- ・サービス契約者数（令和5年度3月末の継続利用者数）

福祉サービス利用援助・日常的金銭管理サービス 18名

書類等預かりサービス 3名

(2) 成年後見制度の利用推進

川崎市社会福祉協議会川崎市あんしんセンターでは、川崎市から成年後見支援センター事業を受託し、各区あんしんセンターにおいても成年後見制度利用促進のため、広報や相談・支援を実施しました。

- ・成年後見制度の概要や申立て手続きに関わる相談

相談件数 275件（初回相談119件、継続相談156件）

(3) 関係機関との連携及び連絡調整

行政機関や地域包括支援センター、地域相談支援センターが実施するカンファレンスや麻生

区高齢者支援カンファレンス（年12回開催）に出席し、権利擁護支援にかかわる地域連携ネットワークの構築の推進に努めました。

13 老人いこいの家運営等事業

麻生区内7館の老人いこいの家の指定管理者として、地域の高齢者が健康で生きがいのある豊かな生活が送れるように、施設（各部屋）の利用をはじめ、教養講座や行事を開催し、高齢者の活動を支援しました。

また、各老人いこいの家の運営委員会と連携し、施設の適正な管理運営を行うとともに、地域福祉活動の拠点としての有効利用に努めました。

(1) 指定管理事業

ア 老人いこいの家の運営委員会の開催

- ① 王禅寺老人いこいの家 2回（7月13日、1月17日）
- ② 片平老人いこいの家 2回（6月30日、1月29日）
- ③ 千代ヶ丘老人いこいの家 2回（6月27日、2月2日）
- ④ 白山老人いこいの家 2回（7月24日、1月22日）
- ⑤ 麻生老人いこいの家 4回（5月26日、7月14日、10月13日、3月4日）
- ⑥ 岡上老人いこいの家 2回（6月12日、1月24日）
- ⑦ 百合丘老人いこいの家 3回（5月24日、7月20日、1月17日）

イ 令和5年度利用状況 開所日数合計2,058日 利用人数合計59,590人

ウ 令和5年度入浴事業利用者の状況 利用者数合計115人（1館分）

※千代ヶ丘老人いこいの家については、ボイラー機器故障のため令和5年1月より休止していたが、令和6年3月事業廃止

王禅寺老人いこいの家については、浴室タイル崩落の恐れがあるため、令和6年1月より事業休止

エ 教養の向上及びレクリエーションに関する事業

- ① 教養講座・公開講座 開催回数計620回 参加人数計6,497人
- ② レクリエーション 開催回数計44回 参加人数計2,133人

オ 多世代交流・地域交流に関する事業 開催回数計17回 参加人数計2,133人

カ 健康づくり・介護予防に関する事業

区役所や地域包括支援センターが実施する事業に協力した。

キ 高齢者の社会参加を促し、高齢者の活躍の場につながる取り組みを推進

ボランティア活動振興センター事業と連携し、高齢者がボランティアに関心を持っていただけるよう、関連リーフレットや活動紹介冊子等を各館に配架・設置した。

ク 消防訓練・避難訓練の実施 実施回数計7回 参加者数計182人

ケ 老人いこいの家管理人研修会の開催

- ① 普通救命講習Ⅰ・救命処置実技（心肺蘇生およびAED）：川崎市消防防災公社主催
3回（12月21日、1月15日、1月29日） 計30名
- ② いこいの家管理人連絡会議
2回（1月11日、1月12日） 計23名
- ③ いこいの家代替臨時職員研修 ※書面による開催 代替臨時職員24名
1回（2月15日）

1.4 災害活動関連事業

平成29年度の川崎市総合防災訓練（麻生区開催）をきっかけに、行政、市・区社協をメンバーに麻生区災害ボランティアセンター設置運営について検討を重ねました。令和2年度からは、会議名称を「麻生区災害ボランティアに関する連携会議」としてボランティア活動振興センター内に設置し、災害ボランティアセンターの設置・運営に限定することなく麻生区の災害ボランティアについて、麻生区総合防災訓練での広報啓発に合わせて、広く協議・検討することとなりました

(1) 災害ボランティアについての取り組みの推進（再掲）

ア 麻生区災害ボランティアに関する連携会議の開催

今年度については、「川崎市内郵便局長防災研修」に参加し、区ごとのグループディスカッションにて、各機関（麻生区内郵便局、麻生区役所危機管理担当、麻生区社協）の72時間以内の初動対応について共有し、さらに連携の在り方について協議しました。

1回（2月5日）

イ 川崎市総合防災訓練（多摩区会場）への参加

市社協・多摩区社協が主催の「災害ボランティアセンター運営訓練」に参加しました。また、事前研修会にも参加しました。

1回（9月3日）、事前研修会（8月30日）

ウ 麻生区総合防災訓練への参加

災害ボランティアセンターに関するパネルの展示やチラシの配布をし、区民の方に向けた普及啓発を行いました。

1回（12月2日）

(2) 災害対策・事業関連

ア 事業継続計画を定期的に見直し、更新しました。

(3) 災害発生時に必要な物品等の整備

アルファ米等、災害備蓄食品の保管・管理を行いました。

1 5 団体事務

関係団体事務局として、団体運営・活動に支援協力しました。

(1) 神奈川県共同募金会川崎市麻生区支会への協力

(2) 麻生区民生委員児童委員協議会

(3) 関係団体の事務協力

(4) 麻生区賀詞交歓会の共催

令和6年麻生区賀詞交歓会の開催（1月9日）

1 6 その他

その他、地域福祉推進に必要な事業を実施しました。